



善称寺だより46号でもご紹介した「二河白道図」。現物は本堂でご覧いただけます。※46号のバックナンバーは無くなりました

絵解き 「二河白道のたえ」

「二河白道のたえ」は中国・唐の善導大師がお説きになったもので、浄土真宗の教えのかなめがやさしい物語の中に余すところなく表現されています。その物語を絵で表したものが「二河白道図」です。では、物語の中で何が何にたとえられているのでしょうか。絵解きをしてみましょう。

旅人 = わたし
物語の主人公は、ほかの誰でもないこの「わたし」です。西に向かって旅をしています。西は太陽の沈む方角です。命は太陽なしで生きることができません。仏教ではすべての命が帰ってゆくところとされています。



盗賊やおそろしい獣たち = 煩惱の象徴
煩惱を生じさせる私の「心と肉体」を群族や獣にたとえています。私の求道を妨げ迷いの世界につなぎとめるもの、それは私自身であるのです。

火の河と水の河 = 貪欲と瞋恚
貪欲はむさぼりと我欲、瞋恚は怒りや憎しみのことです。これに愚痴（自己中心の心）を合わせて三毒と言います。愚痴の心は自らに都合の良い状況では貪欲となり、都合の悪い状況では瞋恚となって現れるため、水の河と火の河で三毒が表現されています。

西の岸 = 極楽浄土（彼岸）
楽しみに満ちた夢のような世界が描かれていますが、お釈迦さまはまったく逆だと言います。私たちはこの世で夢を見ているのであり、夢から覚めた世界が極楽浄土（彼岸）真実の世界であると。

白い道 = 信心と本願力
白道が二つの意味を持つのは、浄土真宗の信心が、私が信じ固める信心ではなく、阿弥陀仏の本願力が私に届いてできあがった「本願力回向の信心」であることを示しています。信心と本願力とは別物ではないのです。私の起こした信心であるならば、信心の白道は水か火の煩惱に崩されてしまうはずですが、それが崩されずに西岸まで続いているのは、信心が阿弥陀仏のはたらきによってできあがった心であるからです。親鸞聖人はこの何ものにも壊されることのない信心を「金剛の真心」と言われています。



二河白道のたえ

一人の孤独な旅人が百千里のはるかな道のりを西にむかって歩んでいると、誰ひとりいない、果てしない広野に出た。すると、背後から多くの盗賊やおそろしい獣たちが旅人を殺そうと襲いかかってきた。死の恐怖を感じた旅人はすぐさま走って西へ向かうが、突如として大河が現れ、行く手をさえぎられてしまう。左側には火の河が、右側には水の河が伸び、それぞれ底知れぬ深さをもって、西の岸までの河幅はわずかに百歩であるが、南北に果てしなく続いていた。

その時、旅人のいる東の岸から、「そなたは、ためらうことなくその道を進んで行け。絶対に死ぬことはない」という声が聞こえた。と同時に、対岸の西の岸から、「汝よ、一心にためらいなくまっすぐにこちらに来るがよい。わたしはあなたを護る」と招き喚ぶ声が聞こえてきたのである。

旅人は、その声に身をまかせ、波浪と火炎が覆う白道を進んだ。途中、「戻って来い、その道は危険だ。間違わずに落ちて死ぬ」という群賊の呼びかけが聞こえる。しかし旅人は戸惑うことなく白道を進み、西の岸にたどり着いた。西の岸では、永久に苦しみを離れ、善き友と会い喜びが尽きることがなかった。

本願寺出版社発行「季刊せいてん No.128」より



西岸の人の声 = 阿弥陀さまの呼び声

東岸から聞こえるお釈迦さまの声と、西岸から聞こえる阿弥陀さまの声が一致して私たちに救いを与えることを「二尊一致」と呼んでいます。阿弥陀さまはお立ち姿で、光明を放っています。これは、善導大師が「二河白道のたえ」の着想を得たとされる『観無量寿経』の「住立空中尊」を描いています。『住立空中尊』とは、お釈迦さまが韋提希に「これからあなたに苦惱を除く法を説こう」と言われた時、突如、空中に姿を現し住まり立った、まばゆい光を放つ阿弥陀さまのことです。この立ち姿の阿弥陀さまは、お釈迦さまの「苦惱を除く法を説く」という声に応じて現れた仏ですので、実は、「私にまかせよ、必ず救う」という阿弥陀仏の呼び声を表しているのです。



東岸の人の声 = 教法

東の岸から聞こえた声はお釈迦さまの「教え」をたとえたものです。善導大師は「お釈迦さまは入滅しておられてそのお姿を見ることはできないが、私たちは釈尊が残された教えを聞くことができる」と説明されています。具体的には「お経」のことです。



おてらのカフェの工事、やっと完成が見えてきたかな。「まだなん？」って言われながら法務の合間に少しずつ進めています。

住職・釋真宣（宇治田真宣）

日々のあわ

一晩にして見事な巣を張るクモの技に驚かされます。お墓とお墓や木の梢の間にきらきらと光る糸が張り巡らされて、虫が苦しい私を思わず目を奪われるほど。人が通らない場所になるべくしておきますが、参拝の方の邪魔になるところに張られるのは困るので、掃除のついでにほろいでおきます。が、払っても払っても、少しづつ場所を変えながら毎日出現する芸術的なクモの巣。何度の攻防戦を繰り返しながら、(あー、ここはダメだったか…。じゃあ、こちらならいけるか!)と、クモが安住の地を求めて懸命に健気に大仕事に挑んでいるように思えてきて、申し訳ない気持ちに…。そのうち、居着いたクモたちが人の頭よりも高い位置や基地の隅、ここにビシッと巣を張って獲物を待ち構えているのを見かけるようになります。「まあそこならいいよ」と心の中ぞつぱやく、なんぞ偉そうな私でしょうか。親鸞聖人は歎異抄の中で「一切の有情はみなもって世々生々の父母兄弟なり」とおっしゃっています。すべての生きとし生けるものは、何でも生まれ変わりますうちに家族同然になる、と。クモの巣の網目を通して、等しいはずのいのちをどこまでも自分勝手な都合で愛でたり疎んだり奪ったりしてしまう。愚かな私の姿が見えました。

<一級遮光>の晴雨兼用傘を買いました。UV カット率・遮光率 99.99%以上だそうで、灼熱の空の下で日陰を持ち歩ける嬉しさよ…！



寺男の独り言です…
夏至…半夏生
真夏が近づいています…
御自愛下さい

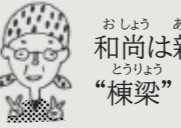
先日、鞆川の“cafe tomobuchi”へ…お爺ちゃん4人組で行ってきました…往路は和歌山市→山田ダム→野田原→細野→鞆川@cafe tomobuchi 復路は鞆川→黒川峠(下り)→紀ノ川市→和歌山市というコースで往復約70kmです…帰りは下りだからどうってことないのですが、問題は往路です！ずうーっと上りです！！特に野田原の上り坂(勾配15%)はキツいです！時速5km/hです。何しろ上っているのがもうすぐ喜寿のBIG BOSSと還暦をとっくに超えたお爺ちゃん3人の4人組です…因みに寺男は



道路際花壇に向日葵とジニアの種をまきました。可愛い芽が出ました。お楽しみに。

あつ3年で古希です！！
のぼりきれたときはお互いに顔をみあわせ「上れた！！」と…結構元気なお爺ちゃん達です！！

寺男のお願いは、線香をひと束まとめて火を付けるのは、ご遠慮して下さい！燃え上がりすぎます！危険です！！それに墓石が汚れますし、その後雨が降ると線香の灰がセメント化して墓石にこびりつき取れません！お墓を綺麗にしましょう…



和尚は新しいcafe Hummingの建具製作に動いています！で、寺男は和尚を「棟梁」と呼んでいます(笑い！！)